

## 第3回「ヒヤリハットをすぐ、報告・共有する方法」

NPO 法人保育の安全研究・教育センター代表理事 掛札 逸美

### ●「報告しやすく」しなければ、報告はあがってこない

この危なさを放っておいたら、子どもの命にかかわるできごとが起こるかもしれない、そんな気づきやヒヤリハットがあったら…？ 前回、お伝えしたようにまずは報告・共有です。それもすぐに！「後で書けばいいや」「時間がある時に書こう」と思っているうちに、その危なさに深刻なできごとが起こってしまうかもしれません。

そうはいつても、「すぐに報告・共有！」ができるようにするためには、「報告しやすさ」を考えることが必須です。人間はもともとめんどくさがりやの生き物。特に、ヒヤリハットのように「自分がいけなかったのかも」「子どもが、あんなことをしたから」と感じてしまうことについては、気が重くなり、「めんどくさい」以上に「書きたくない」「言いたくない」と思ってしまう。

### ●付箋が最も簡単：報告・共有の第一歩

では、「報告しやすく、共有しやすい、気づき・ヒヤリハットの記入票」とは、どんなものでしょうか。……付箋です。市販されている約7センチ角の付箋を、クラスごとに色分けします。付箋自体は同じ色なら、使用前、側面に太マジックで色をつけておき、マジックの色を見ればクラスがわかるようにしておきます。クラス名をいちいち書く必要をなくすためです。

そして、付箋の束を筆記用具と一緒に、各クラスのロッカーの上などに置いておきます。気づきやヒヤリハットがあったら、すぐに記入！ その時、職員の名前を書く必要はありません。「ロッカーの、カバンをかけるフックのネジがとれていた」「子どもが園庭で落ちていた釘をみつけて、持ってきてくれた」「STくんが、〇〇のおもちゃを口に入れていて、言っても出そうとしなかった」「FUちゃんが、複合遊具のすべり台の上にあった石を下に投げそうになった」と、事実だけを書きます。落ちていたものなどは、小さければセロテープで付箋に貼っておきましょう。

付箋は毎日回収して、園長、主任、看護師、リーダー保育士などが内容を読みます。付箋ですから分類も簡単。「これは早く直さなきゃ！」「これはみんなですぐに対策を立てなければ」というものから優先順位をつけて考え、対策をします。その日の付箋を簡単に分類してホワイトボードに貼ったり、見終わったものをノートに貼って保存したり、皆で分類しながら考える園内研修をしたり…。いろいろな活用方法があります。

### ●「今後の対策」「予防策」は不要

報告書につきものの「原因（として考えられること）」「今後の対策」「予防策」を付箋に書く必要は、いっさいありません。なぜでしょうか？

#### 1) 原因や今後の対策を書けると言われると、書きたくなる

ゼロ歳児の部屋にビー玉が落ちていた理由を考えていたら、「犯人捜し」になってしまいます。そ

んなことを書くのは、誰だって気が重いものです。

一方、子どもが関わったことの場合、「私が～すべきだったところをしなかったから」「止めたのに、〇〇ちゃんが走ったから」など、もともと明確ではない責任の所在(言い訳?)を書かなければなりません。そして、「きっとまた起こるのになあ」と思いながらも、「これからは注意します」「気をつけます」と決まり文句の反省文(原因でも対策でもありません!)を書かざるをえません。これでは、ますます書きたくなくなります。

## 2) 原因や今後の対策は、後から皆で考える

人間は「つい」「うっかり」の生き物ですから、経験の長さやふだんの注意深さにかかわらず、事故は誰の前でも起こり得ます。「あの先生だから」「あの子だから」と思っていたら、リスクは他人ごとになり、自分の目の前で起こる可能性を無視することになります。

ですから、結果が深刻になったかもしれないできごとの場合は特に、皆で原因や対策を考えることが不可欠です。個人の反省文を書かせることは、共有を遅らせるだけでなく、リスクを他人ごとにしてしまう危険性をはらみます。

## 3) 気づきやヒヤリハットは出した者勝ち!

「自分が関わったヒヤリハットをみんなで考えるなんて、すごく気が重い…」と思うかもしれません。ここが一番大切なポイントです。気づきやヒヤリハットは気づいた者勝ち! 出した者勝ち! 伝えた者勝ち! 気づかなかつたら、書かなかつたら、共有しなかつたら、次には深刻な結果が起こるかもしれません。その時になって「言っておけばよかった」と思っても手遅れです。

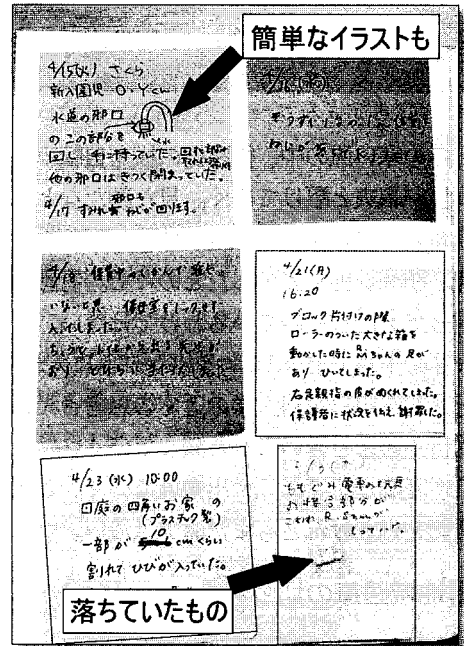
気づきやヒヤリハットを出すのは「良いこと」「ほめられること」という空気を園全体に作ることに不可欠です。付箋がどんどん出てくるように、園長、主任、看護師、リーダー保育士が「出してくれてありがとう!」「書いてくれてありがとう!」と声をかけてください。

すでにヒヤリハット報告書がある園も多いでしょう。「でも、月に数件しか出てこない」…。ならばその報告書はとりあえずしまっておいて、付箋法を試してみてください。どんなに立派な報告書があっても、気づきや事例が出てこないのでは意味がないのですから(規定の受診[事故]報告書に書いた事例でも、早く共有したい内容はもちろん付箋にも書いてください)。

付箋法で気づきやヒヤリハットが少しずつ出てくるようになったら? でも、出てくるクラス、出てこないクラスがある…。次回はその点を取り上げます。

掛札逸美(かけふだいつみ): 心理学博士(社会/健康心理学)。1964年生。(詳細は第1回)。

NPOのウェブサイト <http://daycaresafety.org/>



つくしんぼ保育園(東京都日野市)の「気づき・ヒヤリハット記録帳」。その日に各クラスから集まった付箋をノートに貼り、園長、看護師、主任等が見て「すぐ対応すべきもの」「園全体で取り組むべきもの」から対策を立てていきます。